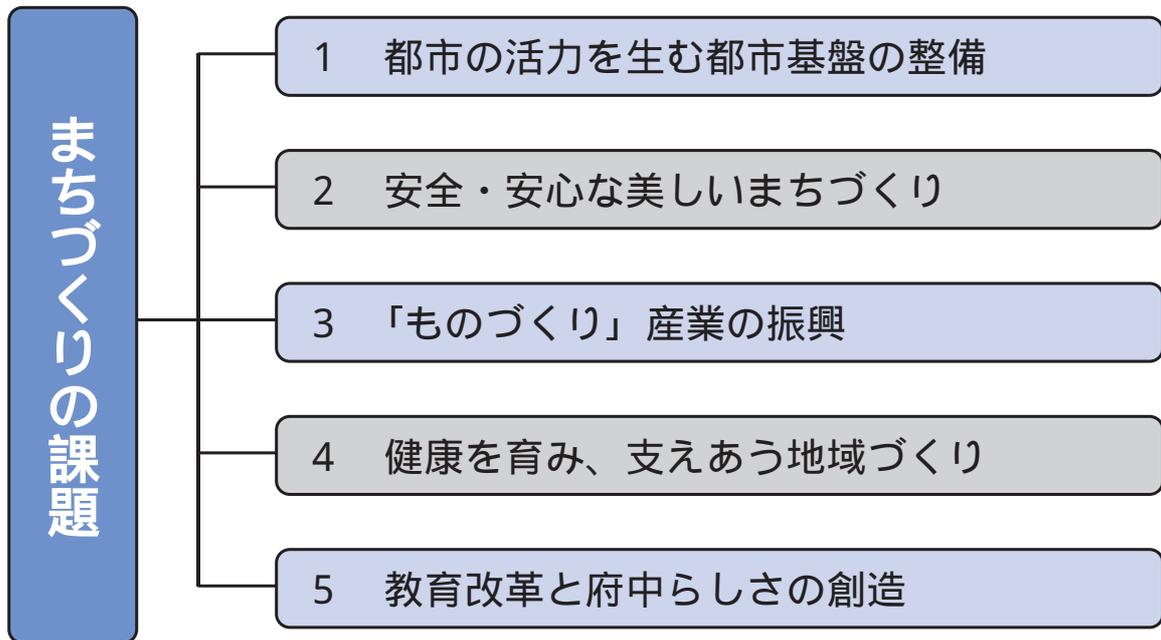


府中市のまちづくりの課題

ここでは、本計画を策定するにあたって、府中市のこれからのまちづくりに求められる方向を把握するために、府中市の現状とこれからの社会動向からみた5つの課題となるテーマをまとめています。





1. 都市の活力を生む都市基盤の整備

(1) 企業活動や市民生活に便利な広域的な道路ネットワークの整備

これからのまちづくりに必要な広域的な企業活動や市民生活の利便性を高めていくうえで、広島空港、山陽自動車道への高速インターチェンジ、福山港、福山市中心部、尾道市などへの広域ネットワークの環境整備が必要となっています。特に、現在、計画されている府中市の広域的な幹線道路となる南北道路(栗柄広谷線)・一般国道486号・府中新市線の改良・整備を早急に進め、府中市中心部から広域へのスムーズな移動ができる南北軸・東西軸を強化していくことは、最も重要な課題となっています。

市街地内の道路ネットワークについても、未整備区間が多く、脆弱な状況にあります。そのため、計画的な都市計画道路の整備や工業団地へのアクセス道路などの整備による、企業活動や市民生活を支援できる道路交通環境づくりが求められています。

また、上下地区を加えた新たな地域構造を円滑にするネットワークを確立していくため、主要地方道府中上下線などの整備も重要な課題となっています。

(2) 地域の顔となる中心市街地の整備

J R府中駅・J T跡地周辺を中心とした中心市街地には、多くの公共施設・商店街などが集積していますが、J R福塩線で南北が分断され相互利用がしにくい状況にあります。また、一般国道486号線沿いへの大型店舗を含めた商業施設の進出により、既存商店街の急激な吸引力の低下など、中心市街地の空洞化が進んでいます。

産業振興、コミュニティの活性化、市民の豊かな暮らしづくり、市内外の幅広い交流の拡大など、府中市のさまざまな場面に対して活力となる新しい地域の顔としての拠点整備が求められています。

リ・デザイン
Re design ゆめ ひら 未来を拓くものづくり都市 府中

幹線道路 = 道路網のうちでも主要な骨格をなし、都市に出入りする交通及び都市内の住宅地、工業地、業務地等の相互の交通を主として受け持つ道路。主要幹線道路、都市幹線道路、補助幹線道路に大別される。幹線道路は、周辺地域の開発を促し、災害時の避難路や延焼遮断帯としての機能もあわせ持つ。

コミュニティ = 人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、およびその人々の集団。地域社会や共同体など。



(3) 計画的な土地利用による快適な市街地環境づくり

府中市中心部は住宅地・工業用地・農地などが混在しており、計画性のある面的整備が必要となっています。

特に、企業活動を中心とした土地利用が進んだことによる基盤整備の遅れをたてなおし、現実的かつ弾力的な土地利用により、快適で利便性の高い市街地環境に改善・整備していくことが急務であるといえます。

また、府中らしさを考慮したまちなみのデザインを整備することで、都市としての顔づくりが求められています。

(4) 環境にやさしい快適な生活基盤の整備

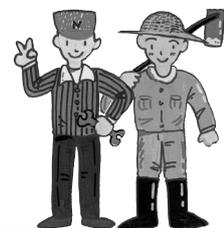
快適な市民生活を確保し、定住効果を図るため、上下水道の整備を進めることが重要な課題となっています。

山林・農地・河川が地球環境の保全に重要な役割を果たしていることを認識し、ごみの減量化や美化活動などの環境保全活動を市民・企業・行政が一体となって進めていくことが必要になっています。

(5) 利便性の高い情報通信基盤の整備と活用促進

本格的な高度情報化社会の到来により、日常生活のさまざまなサービスをインターネットなどにより享受できるようになりました。今後、こうした情報通信技術を生かした生活利便性は広範に高まっていくものと思われます。

府中市についても、福祉・文化・教育・産業・生活環境など、さまざまな分野における情報化の進展は、市民の学習や創造的活動、健康で安心して暮らせる生活に寄与するものと期待され、いろいろなサービスが提供できるネットワーク環境が求められています。



2. 安全・安心な美しいまちづくり

(1) 自然災害などに備えた安全・安心できる防災体制の確立

うるおいを与える生活基盤を整えていくためには、利便性だけでなく、安全・安心な空間整備が不可欠であり、道路・公園・公共施設などで、防災の観点にたった市街地の緑地・公園の確保など市民が安心できるまちづくりが大切です。

特に、地震などの自然災害にも対応した防災対策は、重要な課題であり、防災体制・治山治水対策・災害時要援護者対策などの環境整備により、災害に強いまちづくりを進めていくことが必要となっています。

(2) 生活交通弱者を支える公共交通網の充実

府中市の公共交通は、鉄道交通としてJR福塩線、バス交通として民間バス路線や府中市自主運行路線があります。世帯あたりの自家用車の保有台数の高さが示すように、マイカーが市民の主要な移動手段となっており、公共交通の利用者は減少傾向にあります。

今後とも、利用者の減少が続くと、採算面などを理由として、路線の廃止も懸念されています。高齢者や子どもなど、自らが移動手段をもっていない生活交通弱者を中心に、通院・通学・買い物など日常生活に不可欠な交通手段が失われることがないように、すべての市民が利用しやすい、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの確保に向けた取組みが課題となっています。

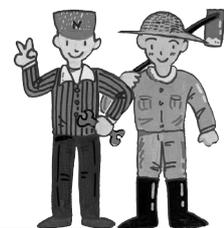
(3) 自然との共生による美しさとうるおいのある生活空間の整備

豊かな緑・川などの自然がもつ美しさは府中市の貴重な財産であり、次代に継承していくことが望まれています。

また、府中市中心部などのまちなみに緑・花などの自然が共生し、美しさとうるおいを感じる生活空間を創造するため、地域のコミュニティを中心とした美化運動が求められています。

(4) すべての人にやさしいユニバーサルデザインを考慮したまちづくり

都市基盤・交通・教育・雇用・住宅など幅広い分野で、障害の有無などに関わらず、すべての人にやさしいユニバーサルデザインの考え方をもちまちづくりが求められています。



3. 「ものづくり」産業の振興

(1) 基幹産業である「ものづくり」産業の多面的な振興

府中市のリーディング産業である家具・機械金属・繊維などの製造業は、中核となる企業を下請けが支える産業構造をもって発展してきました。この「ものづくり」産業は、自立した地域社会を支える産業基盤の柱であり、備後地域における府中市のもつ強みです。したがって、これらの産業をより活性化させていくことが、府中市が自立し、発展していくために最も重要であるといえます。地域を支える製造業の活性化を図るため、中小企業を中心に時代のニーズにあった商品開発・技術開発ができるための情報提供などの支援が求められています。また、「ものづくり」の個性を発揮した産業観光や熟練工などの「ものづくり」人材の活用など多面的な「ものづくり」産業の振興を図っていくことも必要となっています。

(2) 商業・農林畜産業など、既存産業の活性化

商業は、大型店舗の進出などもあり、既存商店街を中心に消費者への吸引力は急激に低下し、空洞化が進んでいます。福山市を中心とした生活圏の中にある環境条件をふまえ、中心市街地の整備などと連携を図った個性ある商店街の活性化が必要となっています。

農業・畜産業については、後継者不足や兼業化の進行などにより長期的な衰退傾向にあります。一方、近年、安全な食に対する消費者の関心が高まってきています。有機・減農薬農業などにより農家の顔のみえる安全な食の提供を進めることで、消費者ニーズにあった新たな農業の活性化の可能性があります。

林業については、木材価格の低迷などにより厳しい状況にありますが、国土保全や水源かん養のためにも森林整備は必要となっています。



(3) 自然・歴史資源を有効に活用した一体感のある観光振興

府中市は、多くの自然資源・歴史資源に恵まれています。これらの資源を再評価し、市内外の関連資源と一体的な連携により観光地としての魅力を高め、交流拡大につなげていくことが期待されます。

特に、備後国府跡・石州街道・白壁のまちなみなどの歴史文化を生かした魅力あるまちづくりは、これからの府中市を対外的にPRできる有効なテーマとなっています。

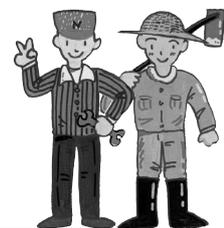
(4) 産学官の連携による新たな地域産業の振興

既存産業の活性化に加え、府中市が「ものづくり」都市としての機能を高め、就業機会を拡大するためには、新しい産業の創出が必要となっています。

特に、サービス産業の拡充や起業化支援を進めるとともに、産学官の連携による新たな産業開発を進めていくことが求められています。



ドレミアフェスティバル ステージで合唱



4. 健康を育み、支えあう地域づくり

(1) すべての人にやさしい地域づくり

少子高齢化が進むこれからの地域社会では、高齢者・障害者などの視点にたった人にやさしい福祉社会の実現が求められています。

高齢者・障害者などに対する福祉サービスの需要が高まる中、これらの受け皿となる人材・施設を確保していくためには、広域的な行政の連携が必要となるほか、高齢者・障害者などが自立できる地域社会に発展していくために市民が支えあう地域福祉体制を整えていくことが重要な課題となっています。

高齢者福祉については、特に中山間地域などでの独居老人世帯に対する支援が今後の課題となっています。

また、学童期のいじめ、働き盛りのストレスが起因と考えられる不登校・引きこもり・自殺や乳幼児・高齢者に対する虐待などは、深刻な社会問題です。そのため、相談・受診などのカウンセリング体制づくりは、市民から切望されています。

(2) 世代にあった健康増進できる健康地域づくりと次世代育成の支援

子どもからお年寄りまで年代にあわせた健康づくりを進めることは、市民にとって安全・安心な暮らしの重要な要件となっています。

特に、高齢者の介護予防や働き手を中心とした成人の糖尿病などの生活習慣病に対する予防対策が求められており、日常的な健康づくりの充実や各地域の診療所などを中心とした健康指導の強化が必要となっています。

安心して働ける子育て環境をつくるため、預かり保育・延長保育などの充実を図り、働き手にとって安心して子どもを産み、喜びをもって育てることのできる環境を創造することが、暮らしやすさや働きやすさの改善を図るうえで重要な要件となっています。

また、小児科・産婦人科を中心とした救急医療体制に対する市民の要望は強く、広域的な連携も含めた全市的な救急医療体制の充実が求められています。



5. 教育改革と府中らしさの創造

(1) 小中一貫教育などによる学校教育の改革

整備予定の統合型の小中学校をはじめとした、小中一貫教育などによる特色ある府中市の学校教育の展開が望まれています。

また、小学校の統合にともない、廃校となった学校の跡地を地域の活力再生、文化力・教育力を高める手段などとして、有効に活用していくことも期待されます。共働き夫婦の多い家庭環境を特徴とする府中市は、放課後児童クラブなどの働き手にやさしい環境づくりが望まれています。

(2) 歴史資源を生かしたまちなみ景観の保全

府中市には、備後国府跡・石州街道・白壁のまちなみをはじめとする優れた歴史遺産や伝統芸能が数多く残されています。これらは地域の貴重な財産として保存・継承することが必要となっています。

また、上下地区の白壁のまちなみや出口地区に残るまちなみ景観についても、歴史文化を生かした美しい景観を残していくために整備・保全が望まれています。

(3) 市民が自主的に自己実現できる多彩な生涯学習の環境づくり

市民が夢をもち、自己実現できる文化・スポーツ環境は、魅力あるまちづくりにとって重要な要件となっています。そのためには、既存の施設・設備を有効に活用するだけでなく、市民のニーズにあった独自の企画・運営面の充実が不可欠であり、市民参加型の体制づくり・組織づくりが必要となっています。

特に、府中市生涯学習センターを核とした各公民館とのネットワークによる市民の主体的な生涯学習活動やスポーツ活動への支援の充実が望まれています。